劇団希望舞台

釈迦内柩唄

しゃかないひつぎうた

ふるえるような 怒りの奥底に
すがるような いのちの願いがあった

水上勉 作

題字 武田昭龍

2023年 6月5日(月) 飯山市文化交流館「なちゅら」大ホール

◆昼の部・開演 14:00 ◆夜の部・開演 18:30 （開場各30分前）

■入場料一般 / 3,000円 ■高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方 / 1,500円（全席自由）

主催「釈迦内柩唄」を観る会

後援 飯山市 飯山市教育委員会 木島平村 野沢温泉村 栄村
長野県「同宗連」 テレビ飯山 北信濃新聞社

お問合せ
常盤井 智行 0269-62-0270
飯水教育会館内 県教組
下水内支部 0269-62-2531

チェロの〝生〟の響きが舞台へと誘う。

ものがたり…

酒を呑まずにはいられなかった父・弥太郎が死んだ日、ふじ子は父を焼くカマの掃除をつづけていた。ふじ子の胸にさまざまな思い出がよみがえる。

「なして、人は焼場の子と聞くと、あった冷てえ眼で見るんだべか」

昭和20年、終戦間近なある吹雪の夜、ふじ子はまだ小学六年生。コタツを囲んで家族の楽しい団欒のひとときに、一人の傷を負った怪しげな男が転がり込んで来た。

「こんた、吹雪の晩に訪ねてくる人なんていねぇあんだ…」

家族はその男を暖かく迎える。父は酒を勧め、母は故郷の木挽き唄をうたい、ふじ子は舞踏を披露した。誰も訪れない焼き場の夜に、にぎやかなひとときが流れる。だが…。

父が山の畑いっぱいに育てたのは焼いた人の灰で育てたコスモス。人の顔かたちが違うように、コスモスの花もまた、ひとつひとつ違って風に揺られて咲いている。

父の言葉が心に浮かぶ。花は死んだ人の顔だでやー。

チェリスト
高橋 義人

小泉 真穂
(数内ふじ子)

町田 政則
(数内弥太郎)

荻原 ゆかり
(数内たね子)

中嶋 みくり
(数内梅子)

堀越 桃子
(数内さくら)

伊藤 嘉朗
(篠東伯)

神 道明
(憲兵)

わけへだてなき優しさと勇気
時代に問いかける人間賛歌

スタッフ
演出　由井 數
舞台監督　米田 亘
音楽　余田 崇徳
美術　杜江 良
照明　高橋 康孝
チェリスト　高橋 義人
劇場制作　玉井 徳子
タイトル　武田 昭龍
コスモス画　荒木 幸史

旅公演を観劇してくださった水上さん。

「日本人がしなければならない仕事」と言葉を確かめるように語られ、「全国千回公演を目指して下さい」と励ましを頂きました。